

農業への企業参入に関する市町村担当者の評価と意識特性

山本善久・竹山孝治

摘要

市町村担当者の意識特性の視点から、企業参入に対する地域農業での位置づけや評価を明らかにし、段階的な支援方策について考察した。

1. 市町村担当者は、参入企業に施設園芸の担い手及び地域農業の中核的役割・機能を期待し、栽培の基盤となる農地確保や参入初期の経済性に不安を抱いている。
2. 参入実績別にみた市町村担当者の評価では、「加工・直売等の多様な経営展開」「高収益アグリビジネスへの発展」「施設園芸の担い手」「まとまった農地の確保が困難」「優良農地の確保が困難」「黒字転換まで数年かかる」の 6 項目で両者間に差がみられ、いずれも参入実績のある市町村担当者の評価が高い。また、「既存農家や JA 事業との競合・乖離」をはじめとした地域農業との関係への不安感という点で、参入実績のない市町村担当者が強く不安を抱く傾向にある。
3. 市町村担当者の意識特性からみた農業への企業参入における支援方策は、初期段階（参入実績なし）の市町村においては、地域農業との関係への不安感を排除することが求められ、参入実績のある市町村では、参入企業それぞれが抱える課題への対応が求められる。